

**【取組内容】 授業に対する意識の改革～「教師が教える」から「子どもが学ぶ」へ～**

## 1. 本校の研究主題

「主体的に学び 考えを深めていく子どもの育成 - 協働的な学びを通して -」

## 2. 年度当初の状況

本市指導主事が年度初めに各教室の授業風景を観察したところ、子どもの1人1台端末を利用した授業を展開しているものの、ほとんどの学年・学級において教職員による一斉授業が中心であり、子どもの主体的な学びや対話的な活動が十分に見られない状況でした。この現状を踏まえ、管理職と協議の上、まずは個々の教員の授業に対する意識改革を進める必要があることを確認しました。

## 3. 年間の取組

**【1学期】**

## ○ 指導主事による教員の授業づくりの伴走支援

指導主事の助言と伴走支援のもと、各教員が日常の授業で「子どもが自ら進んで考える授業」の実現に向けて試行を行いました。

## ○ 先進地視察

1人1台端末を活用し、子どもが主体的かつ対話的に学んでいる学校の授業を見学しました。視察に参加した教員は、得た知見を全職員に共有し、授業づくりのノウハウを校内に広めました。

**【2学期】**

## ○ 1人1実践

先進地視察や伴走支援を通じて得た見識を基に、各教員が1人1台端末を効果的に活用し、子どもが主体的・対話的に学ぶ授業を積極的に実践しました。また、実践結果を職員間で共有し、相互の授業改善に努めました。

## ○ 「探究のサイクル」の活用

子どもがより深い学びに到達できるよう、「課題の設定→情報の収集→整理・分析→まとめ・表現」の探究のサイクルを授業に取り入れました。

## 【取組内容】授業に対する意識の改革～「教師が教える」から「子どもが学ぶ」へ～

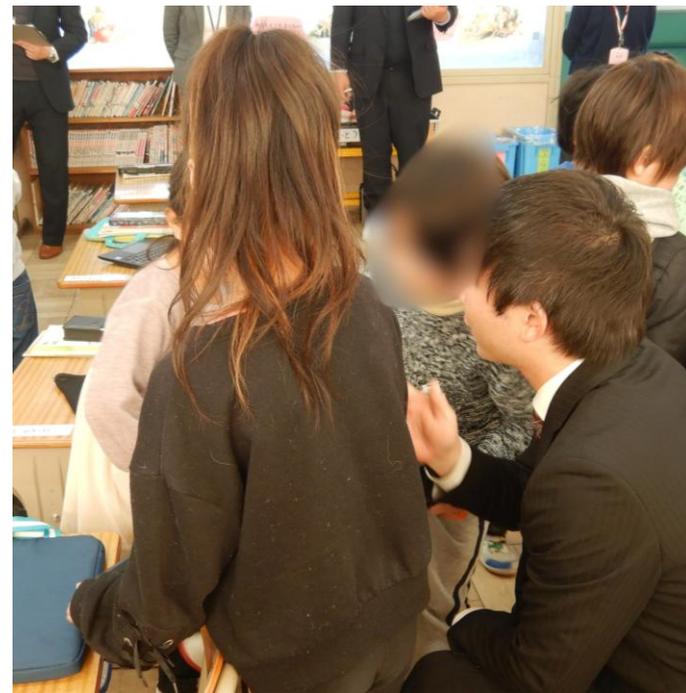
- 研究授業の実施（2年生 体育「ボールゲーム」）  
子どもの苦手意識に配慮し、レベルアップしたい動きを（遠くに投げる・狙って投げる・強く投げる）自分で選択・決定し、友達のアドバイスを受けながらスキルの向上を目指していました。

## 【3学期】

- 奈良市リーディングDXスクール公開研究会における公開授業の実施  
1年生 国語「ずっと、ずっと、大すきだよ」および4年生 社会「シカとともに生きる奈良市」の授業を公開し、子どもの主体的な学びの成果を発表しました。当日は、参観された方々からも「子どもが端末活用を目的化せずに主体的・対話的に学習ができており、自校に持ち帰るべきことがたくさんある」という声がたくさん上がっていました。

## 4. 取組の成果

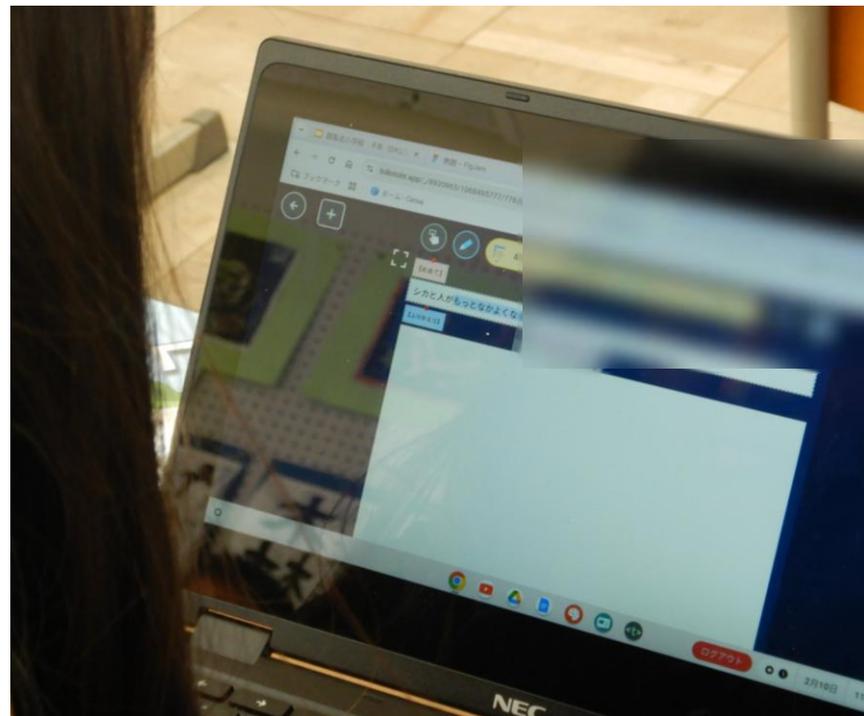
本取組はまだ道半ばではありますが、教員の授業に対する意識に変化が見られ、徐々に子どもたちの主体的な活動や思考の深化が見られるようになってきました。特に、1人1台端末の日常的な活用や探究のサイクルの導入により、子どもたちが自ら課題を見つけ、協働的に解決に向けて思考する姿が見られるようになりました。今後も継続的な実践を通じて、さらなる授業の変革を推進していく予定です。



**【取組内容】 書く力の向上**

2学期より、各教科において、1人1人のめあてや、授業終わり・または単元終わりの振り返りを書く（またはタイピングで打つ）ことを徹底して行うようにしました。はじめは分量も少なく、中身も伴わないものが多かったですが、「量を書く（打つ）」指導やどのようなことを書けばよいのかという指導を行うことで、徐々に質・量ともに伴った個性豊かな表現で自分の思いを表現する子どもがたくさん出てくるようになりました。

1年生では、日々の生活の振り返りをデジタルノートに打たせて提出させる活動を毎日行ったり、子どもが一定字数を超えるとセルの色が変わるように設定したスプレッドシートに振り返りを記入したりすることで、子どもの書く意欲を高める工夫を行ってきました。また、ループブックを活用することで、子ども自身が書いたことに対する自分自身の到達度の見取りを行うことができるようにしました。



**【取組内容】 対話力の向上**

授業における対話を活性化させるため、日常的な話題の中で興味を持てるテーマを設定し、子どもどうしが活発に対話できる機会を作るように工夫しました。例えば、4年生では「旅行をするなら北海道か沖縄か」、「無人島に道具を持っていくなら」等、教科に関係ない場面でも子どもどうしが討論する機会を増やし、まずは、1つの話題についてみんなで語り合うことの楽しさを感じさせることができました。

次に、1人1台端末や書籍を活用し、自分の意見の根拠となる資料を見つけ、相手に提示しながら、資料を基に根拠だてて話したり、デジタルホワイトボード等を活用して相手の思考の立ち位置を考えながら話したりすることができるように指導しました。

このように、年間を通して対話のスキルアップを図ることで、3学期の公開授業では、必要に応じて情報収集をしたり画面を提示したり記録したりしながら、自分自身で学びを深めたり、相手に根拠立てて説明したりする子どもの姿が見られました。

